



# ○屯田兵は何を作り何を食べていたのか？

## 屯田兵の食の考察～樋口日記の記録から～

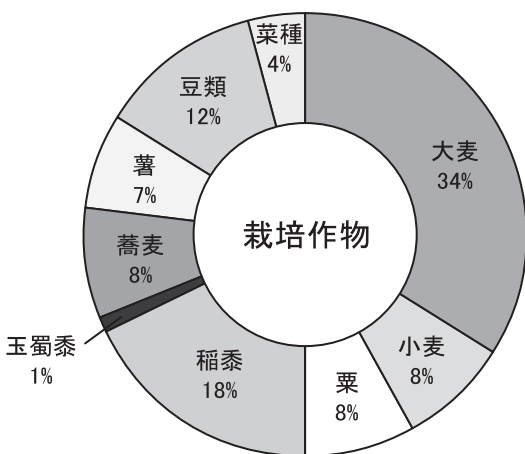
屯田兵第4大隊第4中隊所属の屯田兵「樋口幸吉」さんが書いた日記帳の記録は、昭和59年に幸吉さんの孫、樋口雄幸さんが書きおこし、上湧別郷土史研究会が「屯田兵班長 樋口日記」として出版しています。この樋口日記には、当時の生活の様子が記録されており、明治32年の開墾畑2町4反における栽培作物も記録されていました。この記録から屯田兵の開拓初期の食を類推します。

分類	作物名	作付面積	反収 (理論値)	予想収量	
				石など	kg
麦	裸麦(はだかむぎ)	5.5反	1石/反	5.5石	594kg
	大麦(おおむぎ)	2.5反	0.93石/反	2.3石	250kg
	小麦(こむぎ)	2反	0.65石/反	1.3石	187kg
豆	大豆(だいず)	1反	0.58石/反	0.6石	67kg
	小豆(あずき)	1反	0.49石/反	0.5石	65kg
	扁豆(ひらめめ)	0.7反	0.5石/反	0.4石	41kg
	豌豆(えんどう)	0.3反	0.45石/反	0.13石	18kg
雑穀類	玉蜀黍(とうもろこし)	0.3反	0.96石/反	0.3石	38kg
	蕎麦(そば)	2反	0.8石/反	1.6石	216kg
	薯(いも)	1.8反	283貫/反	510貫	1912kg
	粟(あわ)	2反	200kg/反	400kg	400kg
販売	稲黍(いなぎぎ)	4.5反	0.83石/反	3.7石	536kg
	菜種(なたね)	1反			
耕作面積 合計		24.6反	(10反=1町)		

### 予想収量について

樋口日記には、作付面積しか記録されていません。当時の土地の状況、栽培品種などの情報がないため単位面積当たりの収穫量(反収)は他の情報を使用しました。

論理的かつ広範囲で開拓期に近い年代の調査を探したところ、帯広畜産大学遺伝学研究室の脇本隆先生が発表した「十勝地方主要作物の最近六年間における反収とその変動」の昭和25～30年のデータが現時点では近いであろうと判断し活用しました。したがって、予想収量はあくまで計算値です。



### ○穀類・雑穀が85%

人力で働くこの当時は、力に直結する炭水化物が豊富である穀類が耕地面積の85%。屯田兵には、最初の2年間は玄米2.5合/食が支給されていましたが、換金性が高いことや後年、支給量が減ることから、日々の主食には米は20～40%程度で他は雑穀を混合していました。雑穀は計算上は一人当たり2.6合/食となります。

### ○豆類

タンパク源として、そして日本食で重要な役割を果たす「味噌」の原料として豆類の栽培も重要でした。

### ○開拓者を支えた食

栽培作物から、開拓期の食は弥生時代から2,500年以上つづく穀類を中心とした食事であることがわかります。



**まめ知識** 開拓当時。農耕馬はほとんどいませんでした。屯田兵・山崎佐太郎さんの証言「馬、プラオ、ハローを揃えて持っている所はどこにもなかった。現役明けてからだ。馬を飼うようになったのが、三十二年に各部落で一匹、二匹と入って来た。プラオも三十六年頃になって、やっと再墾プラオと言って、刃が薄いのを持つようになり、新墾プラオなんか持っている者はあまりいなかった。」

## 湧別町生涯学習情報「湧く湧く」2012年1月号 No. 25

編集発行…湧別町教育委員会 生涯学習課 〒099-6404 北海道紋別郡湧別町栄町112-1

<http://www.town.yubetsu.lg.jp/st/70kyouiku/index.html>

印刷…北湧印刷 平成24年1月25日発行

記事へのお問い合わせは

生涯学習課(社会教育係/スポーツ振興係/文化振興係/施設保全係) …01586-5-3132

湧別町図書館 湧別図書館…01586-5-3122 中湧別図書館…01586-2-3150

ふるさと館JRY…01586-2-3000